

『星座の歌』 正誤

拜復、今日は思ひもよらぬ御冊子を給はり。難有頂戴仕りました。早速懇意家に進呈致しました。小老の名譽是れに過ぐるものではありません。誠に恐入りますが。活字の植違が少しありますので。下記の如く御正誤が願ひたいのです。夫は歌の番號 1.麒麟[●]まわりて^〇は^〇まもりて^〇なり。11.初影[●]は初朝^〇なり。15.「蛇[●]さへも^〇」は「蛇^〇さへに^〇」なり。24.「ゆたかに^〇」は「ゆたに^〇」なり。前記の内にて、是非御訂正を願はねばならぬのは、1の「わ^〇」を「も^〇」に直すのです。是は「わ^〇」では物にならんのです。11. 15. 24の三つは歌人としていふ言葉でないから改めるので、今の儘で通じぬ事はないのです。只歌人に詞の笑ひを受けるまでの事ですから、こらへればこらへてもよろしい。

今一つこらへられぬのは、履歴中、犬養先生の文中「繼百代垂統文學」とあります。是は「文^〇」の字は「之^〇」の字です。是は犬養先生の名にかゝりますから。是非御正誤を願はねばなりません。甚だ御手数に候へども宜敷御依頼申上げます。

先は御厚禮旁々如此に御座候 敬具

昭和五年十月七日

平 松 閑 月

水 野 幹 事 殿

追伸 357 頁の 10 行目「夫から其[●]の分の星座の右傍に●此の印を付し」とあります。「其[●]の分^〇」は「其^〇の歌^〇」であります。是亦御正誤を願はねばなりませんから、よろしく願上げます。

右は特別なる思召を以て、被爲下候ものを餘り我儘を申上げて甚だ相濟みませぬ。

追て此の抜刷を懇意家に進呈するに就いては、これを機會に同好會員を進めたいのです。兎も角もよいものを頂戴いたしました。